KSK まちの仲間

第13号
発行日　1996年5月20日
編集人　横浜市グループホーム連絡会
横浜市中区本牧満坂10本牧生活の家内
TEL 045(623)5318　FAX 045(623)5319

昭和51年12月22日第3種郵便物許可
KSK 増刊通巻1398(毎月4回5・15・20・25日発行)

新しい施設とグループホーム

横浜市グループホーム連絡会
会長　室津滋樹

東やまたレジデンスという新しい入所施設の開所式に招かれて参加した。この新施設を運営する法人は、地域での暮らしの実現に一生懸命な法人の一つで、すでにいくつかのグループホームを運営し、運営委員会方式のグループホームの集まりである私たちの連絡会にも、加わっている。

この新しい施設は、グループホームが六つ集まったようなものといえばいいのかもしれない。六～七人分の個室が一つのユニットになっていて、各々のユニットに居間、食堂や台所、お風呂場、洗濯機などが備わっていて、その中で生活していけるようになっている。ちょっと大きめのグループホームといった感じである。建物の作り方や、職員の配置の仕方なども、グループホーム運営の経験がいかされているようだ。四十～五十人規模の大きな集団を管理するような施設から、一人一人の暮らしを大切にしようとする施設へと入所施設も変わりつつあるという印象を強くした。

グループホームを運営しているお母さんたちは、これをみたら、親たちはもうグループホームを作ろうっていわなくなるのではないだろうかとまじめに心配していた。確かに多くの親が求める「いい暮らし」と「安心」がここにはある。

しかし、障害をもつ人が望んでいるのは、まちの中のふつうの暮らしである。どんなに「いい施設」ができても、施設の暮らしとまちの中での暮らしはやはり違うと思う。いい施設ができても、やはり障害者本人はまちの中の暮らしを選ぶだろう。とはいうものの「同じだけのお金をかけたら、もっと住み易いグループホームがつくれるのに」とちょっとくやしい思いにかられる。

何十人もの人が一緒に食事をし、一つの部屋に何人もの人が生活する、ふつうの暮らしとはかけ離れた状態の施設と比べられていたのでは、グループホームの質もなかなか上がらない。大した努力をしなくても、「施設よりましな暮らし」はすぐ実現できてしまうからだ。施設での暮らしの質が向上してきたこれからがグループホームの真価が問われるのであろう。

入所施設の数も少なく、施設以外に生活する場がないという状態から、グループホームというライバルの出現が施設の変化をもたらした。次は施設の変化によって、グループホームが、質の向上をとげる番だ。

本当に障害者自身が自分が暮らす場を選べるようになれば、質が悪い施設もグループホームもつぶれるようになるに違いない。そんな日が来るのを願いながら、障害者本人に選んでもらえるグループホームにしていこうと思う。

365日生活できるグループホームに!!

――助成金をもっとください――

二月の予算発表があって、時は瞬く間に過ぎ去り、はや青葉の季節になってしまった。

介助型運営費の対象として強度行動障害者が認められることになったのは数少ない前進であるが、とにかく今年ほど厳しさを感じた年はない。本当に昨年と何も変わらぬ助成内容にもう声を出すことにすら疲れを感じる。

「まちの中で」がこの世に出てまもなく、第二号で「職員二人体制の確立を」という記事を書いた。一九九二年のことである。この要望はグループホーム連絡会がはじまって以来、欠かすことなく、横浜市に訴え続けてきたものだった。

その後、確かに運営費の介助型加算ができ、制度は毎年少しづつ進んだ。しかしながら「どこのグループホームにも職員二人を雇える制度に」という基本的な要望はいまだかなえられないまま、グループホームの入居者の状況は厳しさを増してきている。

職員を二人雇えるということは、職員が土、日、祭日を問わず、交代で毎日勤務する体制をつくるぎりぎりの人員である。

グループホームが「地域の中で障害者が暮らす家」として位置づけられるならば、三六五日いることができる場となってあたりまえのことではないだろうか。

ところが現実はそうではない。三六五日生活できる体制がないために、あることろでは障害の軽い人を選び、週末は職員を置かないというやり方で補ってきた。また2ヵ所のグループホームを同じ所につくり（10人の規模になる）、職員のやりくりをするという方法をとってきたところもある。いずれも制度の不備を補う苦肉の策の結果である。

グループホーム連絡会に所属するグループホームの多くは土、日は実家に戻るというやり方で職員数の不足を補ってきた。しかし制度ができて十一年、入居者の様子は少しづつ変わりつつある。帰るところのない人、週末もそのままグループホームに居ることを希望する人が増え、週末にも職員を配置するところが増加している。

制度の不備が整えられぬままに、週末や祭日に職員を配置する無理は日を追うごとに累積し、将来への不安は募る一方である。

世の中不況で予算が芳しくないのも仕方がないとの声をよく聞く。が、グループホームは制度誕生以来の根本的な課題を未だに克服できないまま、成長していこうとしている。

この世の中に「居たいときに居ることができない我が家」というものが当然のごとく存在していいものだろうか。

自分の家・自分の部屋に…

グループホーム・ハーモニー
職員 菅野 正裕

障害を持つ子どもたちはやがておとなになったときに「どこで・誰と」暮らすのだろうか。家族のその問いかけにたいする答えはこれまで施設と家庭（親と暮らす）のふたつしかありませんでした。そして「親亡きあと」が語られ、各地で親の会は施設作りにエネルギーをかたむけています。

しかし、かんじんなところでいくつかの思い違いに気づきます。ひとつは施設（法人）はいったんできあがると障害をもつ人や家族の思いどおりには運営されないみたいだ、ということ。もうひとつは実は障害をもつ人たちは施設での生活を望んでいないのではないか、ということです。専門家にはあたりまえでも、家族にとってはショックなことです。なぜか、それは施設が集団として大きすぎる、このひとことにつきます。施設では個人の快適な、まさに「個人的な生活」より組織の安定感や平等感が優先され、障害をもつ人たちそれぞれの「わがまま」はできるだけとおさないように運営されてきました。しかし、時代の流れは変わり、まず身体障害の人たちが声をあげました。「施設はいやだ」と。その思いはアパートやケア付き住宅、そしてグループホームへと実を結びつつあります。

ところで、わたしの働いているハーモニーは自閉症の人たちの入居しているグループホームです。知的障害をもつ人や自閉症の人の多くは、「施設はいやだ」という思いをまわりの人（その中には専門家と呼ばれる人もたくさんいます）にうまく読み取ってもらえないことが多いのです。では、だれが？ハーモニーの場合は家族が積極的に設立に動き、そしていまも運営の全面にたずさわっています。

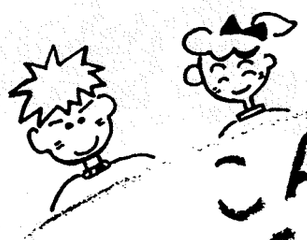
夕方4時すぎ、ひとりまたひとりと会社や地域作業所からハーモニーにもどってきます。残業のあった人がいると6時ごろ、グループホームの入居者がそろいます。「きょうも一日の仕事がおわった」ほっとするひとときおそめのおやつを食べる人、テレビを見る人、新聞・雑誌を読む人、音楽を聞く人、洋服をかたづける人、さまざまな毎日の夕方のすごしかたがあります。職員は、夏なら「シャワーどうぞ」、冬なら「かぜがはやっているのでうがいをしたほうがいいですよ」と、ひかえめな声かけをしながら夕食の準備をすすめて、「自分の家・自分の部屋」に帰ってきた気分がそこなわれないようにします。

ハーモニーでは、入居している人に炊事・掃除・洗濯などの家事を強要することはありません。また、「自閉症の人だから」という特別な何かをすることに慎重です。それより、これまで家族と暮らして作ってきた生活のスタイルがそのまま引き継がれるような配慮をしたいと思っています。それは、ハーモニーを作った家族が、入居者本人の思いをくみとって生活を織りあげていこうとする姿勢をもち、「どこで・誰と」から生まれる集団生活の規律は二次的なものと考えているからです。

職員部会からのお知らせ

キムタクも着ているTシャツを販売しています。収益は、神戸で被災した障害者団体に送ります。
お近くのグループホームにお問い合わせ下さい。

こんにちは あたらしい グループホームです よろしく



グループホーム ぽけっと

都筑区見花山にある「ぽけっと」は、青い大きなお家です。

♡入居者のみなさんから一言

おふろはいって あたまあらってまえあらってせなかはとどかないからてつだってもらう。
川上敦郎〈クリスマスパーティ司会者〉

まいにち カセットを聞いています。
あとはスーパーファミコンをやっています。
斉藤朋也〈演歌大好き〉

ここでの生活は楽しいです。
内藤志乃生〈恋する乙女〉

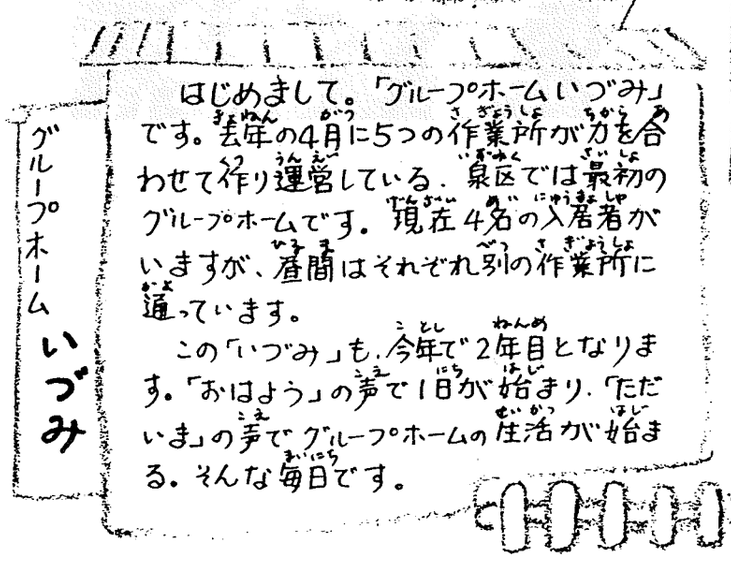
わたしはあさ、車のところまでとか、かいものとか、電動で行けるからいいです。
小川幸子〈ふんばる乙女〉

「ぽけっと」ができて早いもので、9ケ月がたとうとしています。多くの方々に支えてもらった「ぽけっと」今後ともよろしく！
加藤久子〈おしゃべりはまかせて〉

グループホーム いづみ

はじめまして。「グループホームいづみ」です。去年の4月に5つの作業所が力を合わせて作り運営している、泉区では最初のグループホームです。現在4名の入居者がいますが、昼間はそれぞれ別の作業所に通っています。

この「いづみ」も、今年で2年目となります。「おはよう」の声で1日が始まり、「ただいま」の声でグループホームの生活が始まる。そんな毎日です。



上原荘

上原荘は、グループホーム運営委員会『オニオ　』が運営する6番目のホームです。ここで暮らす方々は全員、初の公募によって決まりました。特徴は、リハセン出身の方の多いことです。そして、社会的経験豊富な方ばかりです。建物は一戸建て形式で、グループホーム用にかなりリフォームされています。この形式としては一番床面積の広いホームとなりました。そこに同居人1名を加えた6名が暮らしています。

グループホーム 来夢

夕方4時すぎから、作業所（土村）、会社（敗、田畑、矢代、若川）とつぎつぎに帰宅します。6時30分頃から10時まで、各自好きな時間に食事をして、その間に私たち職員と話しをしたり、仲間どうしで話したりしています。話しつづけている人、人の話しを静かに聞いている人、言葉のキャッチボールを楽しんでいる人、自分の言いたいことだけを短時間に話す人、朝から一度も顔を見せない人と、自分の好きなように時間を使っています。

グループホーム 第2カンガルーの家

1995年4月に戸塚区名瀬町でスタートした私たちのホームは

- おしゃれで美人の工藤好恵さん
- イヤリング好きで行動派の佐々木玲さん
- 最近ピアスの穴を開けた山口知子さん
- ロボットやゲームと猿が好きな高橋伸剛君の4人

が生活しています。

みんな仲良く遊んで良く食べます。おかげで少しふとりぎみ…今年はダイエットを目標にしています。いつも力を合わせて家の中の仕事もみんなで頑張っています。

とにかく賑やかで明るいホームです。是非4匹のカンガルーに会いにきてください。

グループホーム あい

昨年の4月よりスタートして1年余りがたちました。建物は3階建てで1階が作業所、2階がグループホームです。入居者の方は全員男性で5名の方が生活しています。

戸井誠さん…最年長の方です。72才
古賀寿雄さん…部屋を移動しました。62才
中川明彦さん…僕は太っています。37才
川崎広治さん…みんなのまとめ役をしています。36才
森川隆さん…とても優しいです。27才

イラスト　河野元子さん

去る12月23日（土）、入居者部会独自企画第2弾、クリスマス会が行なわれた。それもナンと桜木町駅前の、あ・あのブリーズベイホテルで…。5時から9時というまさしく「クリスマス・イブ・イブ」の夜に…。しかも前から希望の多かった生バンドの演奏も…。皆さんめいっぱいのオシャレをして楽しい夜のひとときを過ごしました。

皆さんの感想で一番多かったのは『ごはんがおいしかった～』『音楽がよかった～』ということでした。

▲"おいしそ～"

待ちに待った。クリスマス会

ブリーズベイホテル

参加者100名!!

▲とび入りも

▲神宮さんのワンマンショーで最高頂に!!

リズムにダンスもとび出す

クリスマスパーティーでしかいをしたのしかった。たべものがうまかった。おどったのやすださんとたけうちさんとよかった。

J上あつお

スポーツ大会のかんそう

下宿屋　井手　洋忠

あれだけたくさんの人数がいて、各種目ができたっていうことは、今でもふしぎなようでございます。しかしよくやれたなあって、あれだけの人数がいて、よく時間内にできたと思います。

僕は車いすサッカーのときにころびましたが、だけどおもしろかったです。また来年もぜひやってほしいと思います。

今度やるときは体育館じゃなくって、グランドで楽しくやりたいと思います。

お礼

クリスマス会のとき、ブリーズベイホテルでは会場費など大変サービスしていただき、ありがとうございました。またボランティアで演奏してくださったリズムアンドクルーズの皆様、すてきな音楽をありがとうございました。

ご協力ありがとうございました。

阪神大震災「障害者の生活を支援する募金」の報告

★寄附してくださった方々 （'95・3・1～'96・3・31）敬称略させていただきます。

石浜由貴枝、西岡直子、鈴木　伸、福田揺子、飯野美保子、橋詰牧子、小森智子、金森裕子
桑原玲子、木元幸子、岡不二枝、岡本美知子、橋本美芽、山川由起子、小沢洋子、松野史幸
田中由美子、田中奈津子、新妻晶子、浅見洋子、白川こずえ、宮武都己子、小塚美穂
青山賢二、高橋優子、山本ひろみ、美容室メイ・フライ
あおぞらの会、未来の会、中区肢体不自由児父母の会、福祉を考える会
ふれあい生活の家、下宿屋、本牧生活の家、ダンボ
ふれあいの家、ともだちの丘
みなみ作業所、港北コスモス作業所、もくせい、地域作業所ダンボ、磯子ハマ作業所
ファィバーリサイクル、早稲田大学オリエンテーリングクラブ
青年音楽ふれあい…（銀行の自動振込のため以下不明です）
※福祉を考える会とダンボは毎月のように送金していただいて居ります。

★カンパ会計報告 （これは95年1月23日から96年3月31日までの分です）

収入の部	金額	内訳
寄附金	4,141,388	のべ90人、102作業所、23団体
街頭募金	101,548	グループホーム入居者部会
その他	689	受取利息
計	4,243,625	

支出の部	金額	内訳		
ボランティア派遣費	279,780	ボランティア交通費		15,000×14
		調査員派遣費		69,780
ボランティア保険	4,500			
雑費	5,431	軍手、地図、振込手数料など		
寄附	3,801,548	2月	兵庫県育成会	500,000
			障害者救援対策本部	500,000
			共同作業所全国連絡会	500,000
			すばる福祉会	300,000
			出発なかまの会	300,000
			日本てんかん協会	200,000
		5月	すばる福祉会	101,548
		12月	ゆめ・風基金	500,000
			被災地障害者センター	900,000
繰越金	152,366			
計	4,243,625			

協力会員募集！

まちの中でくらしている障害者の姿や声をお届けする機関紙「まちの中で」を発行しつづけるためにご支援をお願いいたします。

会費（年）1口 2000円

振替…00280-7-73608
横浜市グループホーム連絡会

☆協力会員になっていただいた方には機関紙をお送りいたします。

基金づくりにご協力を！

グループホーム運営支援基金のためにみなさまのお手元でねむっている未使用のテレフォンカード，オレンジカード，ビール券，商品券などのご寄付をお願いします。

送り先・横浜市グループホーム連絡会
事務局
〒231 横浜市中区本牧満坂10
本牧生活の家 045-623-5318

新年度の協力会費振り込みお願いいたします

阪神大震災にあった障害者の生活を支援するために募金を引続きおこなっています。振替は同上通信欄に「阪神大震災カンパ」と明記してください。

ありがとうございました（'95・10・1 ～ '96・3・31）敬称略

寄附　安田綾子　水越玲子　佐藤由身子

テレフォンカード その他商品券　市原かね子　桑原玲子　本牧活動ホーム　荒木由美子　近藤博子　岡不二枝　須田香　牧野カツコ　大津京子　石井博子　室津滋樹　林純子　今井知子　安田綾子　高橋リエ　畑中木綿子・武史　水越玲子　草壁きみ　川上照子　森美代子　山中健・みつぎ　三谷浩之

協力会員　千ヶ崎孝子　佐々木公子（とも）　梁谷美千代　片岡美恵子　小山笑子　山岡真一　近藤博子　森美代子　ポパイ（長谷川美代子）　牧野カツコ　南馨　大谷律子　佐藤由身子　厚坂年子　椎木章　高橋優子　黒羽知代　浅見悦子

編集後記　今回は大変遅くなってまことに申しわけありませんでした。

発行人　神奈川県身体障害者団体定期刊行物協会
横浜市港北区鳥山町1752
横浜ラポール3F
編集人　横浜市グループホーム連絡会
横浜市中区本牧満坂10本牧生活の家
TEL 045(623)5318
FAX 045(623)5319
郵便振込番号 00280-7-73608
名称　横浜市グループホーム連絡会
編集責任者　室津　滋樹
定　価　100円